

# 古墳出現期の炭素14年代測定

Radiocarbon Dating the Appearance of Kofun

春成秀爾・小林謙一・坂本 稔・今村峯雄  
尾寄大真・藤尾慎一郎・西本豊弘

HARUNARI Hideji, KOBAYASHI Ken'ichi, SAKAMOTO Minoru, IMAMURA Mineo  
OZAKI Hiromasa, FUJIO Shin'ichiro and NISHIMOTO Toyohiro

はじめに

①試料

②処理と測定

③炭素14年代測定結果

④日本産樹木年輪による年代較正

⑤考察

おわりに

## 【論文要旨】

奈良県桜井市箸墓古墳・東田大塚・矢塚・纏向石塚および纏向遺跡群・大福遺跡・上ノ庄遺跡で出土した木材・種実・土器付着物を対象に、加速器質量分析法による炭素14年代測定を行い、それらを年輪年代が判明している日本産樹木の炭素14年代にもとづいて較正して得た古墳出現期の年代について考察した結果について報告する。その目的は、最古古墳、弥生墳丘墓および集落跡ならびに併行する時期の出土試料の炭素14年代に基づいて、これらの遺跡の年代を調べ、統合することで弥生後期から古墳時代にかけての年代を推定することである。

基本的には桜井市纏向遺跡群などの測定結果を、日本産樹木年輪の炭素14年代に基づいた較正曲線と照合することによって個々の試料の年代を推定したが、その際に出土状況からみた遺構との関係（纏向石塚・東田大塚・箸墓古墳の築造中、直後、後）による先後関係によって検討を行った。そして土器型式および古墳の築造過程の年代を推定した。

その結果、古墳出現期の箸墓古墳が築造された直後の年代を西暦240～260年と判断した。

【キーワード】古墳時代、墳丘墓、形成過程、炭素14年代法、年代較正